

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第169版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

採用の攻守

人材採用で苦勞する世の中ですが、採用に苦勞していない園さんのお話をお伺いする中で共通するポイントがいくつかありました。その中で「攻め（自園の保育理念にあった採用方法）」と「守り（人がやめていかないマネジメント）」の二つの要素について今回はお伝えしたいと思います。

まずは「攻め」についてです。自園の保育理念にあった職員が集まってくるようにするには、第一にHPなどで園の保育理念が「保育者や保護者がHPを見ただけで伝わるレベル」で作成されていることです。見る側に伝わるように、スマホに適したデザイン作りもそうですが、理念も文章ではなく動画やスライドなど「見て雰囲気伝わる」工夫が特徴的です。

また第二にHPに来てもらう為にInstagramを活用することです。フェイスブックは主に30代、40代が利用しているのに対して、Instagramは20代、10代が主に利用しているため、求人考えたらInstagramが良いと

考え、皆さん活用されています。実際に調べてみるとInstagramの利用率は10代が72.3%、20代が78.6%、フェイスブックは20代が35.3%、10代は13.5%でした。（総務省 令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査より）

また、「守る」という点では建物の積立は最低限にし、職員に還元できるように、賞与や住宅手当などにまわすこと。子どもを大切にしたいからこそ、子どもを見守る職員をどうやってたら大切にできるかを考えて環境を作ること。職員同士で学び、育ち合える環境を通常業務内で作っていただくなど、様々な工夫がありました。これらについて、詳細を次号から掲載させて頂きま

すので、ぜひお楽しみに！
（眞田海）

保育環境セミナー



これからの保育を考える有意義な時間となりました！

保育環境研究所ギビングツリー主催、見守る保育藤森メソッド® 第57回保育環境セミナーを開催しました。昨年はコロナ対応のため、会場定員の半分を現地参加の上限としていました。今年は、全国から約150名が現地で参加され、会場は満員で活気に溢れていました。また、オンラインでは約60施設の参加がありました。ある先生は、「ここ数年はコロナのため、会場での参加を控えていたの、久しぶりにGT園の先生方にお会いできることや、園見学も楽しみにしていました！」と仰っていました。

見守る保育藤森メソッド®の2つの実践ポイント「子ども同士の関わり」「異年齢」が、今回のセミナーテーマでした。参加者の方からは、「園見学をさせて頂いて、参考になる環境や言葉掛けを知ることが出来ました。そして、藤森先生の直接の講演会では、見守ることや異年齢、人との関わりについて詳しく知れ、保育に正解はないということを知ることが出来る」と

また、セミナー後のアンケートには、「資料が欲しい」「会場が寒かった」などのお声がありました。資料については次回以降、セミナー後にデータをお送りすることにしました。空調については、一か所に風が当たり続けないようスウィングをさせるなど、他にもGT役員の先生方と改善策を練り、準備を進めていきます。

先生方がセミナーに集中して学べる環境づくりが行えるよう、改善をしていきたいと思えます。
（奥山卓矢）

梅干しづくり

今年は人生初の「梅干しづくり」に挑戦する機会を頂きました。ただ、初めてで基本や全体の流れがよく分かっておらず、「次の工程は何だっけ？」「梅の皮が破れてどうしよう…」「梅酢が足りないけど、どうすればよいのか？」など、本やネットの情報を見つつも、疑問だらけの梅干しづくりとなりました。

正に手塩にかけた梅干し。早速試食してみると「本当に梅干しだ！」と不思議な驚きと共に、ここにいたるまでの手間暇の分だけ愛着も湧いたのか、これまでよりも大切に頂く感覚も。昔から身近な梅干しとはいえ、自分でつくってみて初めてこんなにも自然の恵みや先人の知恵が凝縮されているものなのかと感動するばかりで、経験の大切さや尊さも同時に実感しました。

また、土用干しの際には、太陽の向きや雲の動き、空の様子などに注意を払い続けたり（途中小雨が降るといっピンチが…）、赤しその時期が過ぎてしまい、店頭から消えて買えなくなったりと、改めて、自然のタイミングに合わせることの難しさを痛感しながら、学ばせて頂きました。

梅干しなど日本の伝統的な食品は色々あるので、ご家庭や園など、子どもたちと一緒につくってみるのも、素敵な経験と共に、日本の食文化を次の世代へと繋いでいけてよさそうですね。（宮前奈々子）



熱中症対策、風邪や食中毒予防、疲労回復など、様々な効果がある梅干し。つくり方はQRコードからご覧下さい。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

発達に必要な関わり



友達を見て真似する環境以外にも、実際に食器の使い方を学べる環境を用意することも大切です。

先日、中学2年生の娘と小学6年生の息子が食事をしながらこんな会話をしていました。

息子「食器の持ち方って自分は保育園で教えてもらったと思うけど、低学年では正しい持ち方を知らないって子もいるんだよね」

娘「食器の持ち方って教えてもらったって言うより、まわりの子とか先生を見て覚える感じじゃない？」

息子「たしかにそうかも。保育園の時、スプーンの持ち方が大人と同じ子がいてかっこいいと思って真似したもん。最近は前向いて給食食べるから他の子のことあんまり見えな

いんだよね」
2人の会話を聞いていて気付いたのは、やはり子ども同士の間には子どもと大人の関わり以上に発達にとって大切なんだということ。そしてコロナ禍ではその関わりが遮られ、今もそのままになってしまっている習慣があることです。給食の時間は友達と話したり、見たりする大切な時間でもあるようです。

以前と全く同じ環境に戻るのが難しいとしても、子ども同士で真似し合い、刺激し合える環境や、発達を促すための環境を用意することは怠ってはいけないのだと教えてもらった出来事でした。（眞田 由莉）

病と障害

「病」とは治療すれば回復していくものが通常で、その過程で回復せずに残ってしまったものや、先天性で症状があるものを「障害」と呼ぶことが多いですが、最近では「発達障害」について見直される見識が出てきたようです。治らない、回復しないから「障害」という言葉でしたが、新しい治療法によって「育つ」「回復する」という結果が出始めているため、「発達障害」ではなく「神経発達症」という「病」としての認識の可能性が出てきたといえます。

その治療法を「ニューロフィードバック」というそうです。頭につけた機器で測定しながら、その子自身の脳波がアプリに送信され、解析・分析が瞬時に行われ、常にタブレット上にフィードバックしていくことで、自分の脳活動を可視化し続けることが出来ます。それにより自分の状態を自己認識できるようにし、自分自身で感情を自律できるようになったそうです。また、トレーニングだけでなくLEDの波長によって「治療」もできる。そんな新しい手法が注目されています。



編集後記

福岡に移住して早2年。自宅の「和楽」が掲載されました！

先日、地域のまちづくり協議会が発行している新聞に取り上げて頂きました。会の理念は「みんなが主役の魅力ある・暮らしやすいまちを目指そう」というもので、地域にはあらゆる方面から「よりよいまちになるように」と、色々な方々が働きかけていることを知りました。それぞれの働きが形に

なっていくという意味では、この新聞記事も、組織も、家族も地域も社も…共通するものを感じます。今月号の竹取新聞も様々な角度からの記事で構成されていますが、改めてたくさんのおかげさまで、私たちも色々と挑戦させてもらっていることを感じています。今月もありありがとうございます。（宮前奈々子）

一期一会庵

智慧の暮らし

日本のお山の中には、人間によって開拓されていない場所がまだ残っているところがあります。それを原生林といいますが、むかしはその場所を神域と呼び伐採や狩猟も禁止して近寄らずに守っていたともいわれます。

むかしの人は、地域の杜が虫や植物をはじめ動物などすべてのいのちを育み守っていたということから自然から学んでいました。その中心になる場所を守ることでその地域の生態系が豊かになり、バランスが取れるのを知っていました。自然と共生しその仕組みを知るからこそ、大切に守るべき場所もわかっていったのでしよう。

先日、故郷にある古墳のことを深めていくときに、古墳は単なる墳墓ではなくその地域の生態系を守る役割があることを知りました。今でも残る古墳には丘がありその下には貯めた池がありそこから湧水が湧いてきます。ハグロトンボをはじめ、静かな池の周囲には豊かな杜が形成されています。古墳のあったところから、先祖たちは子孫のためにその場所を



ハグロトンボは別名「神様トンボ」とも呼ばれ、昔から大事にされてきました。

杜にして地域の自然が豊かになるように場を調べていくのださったのでしよう。そう思うと、どれだけ長いスパンで物事を観ていたのかと尊敬の気持ち湧いてきます。今の科学を信じることも大切ですが、同時に先人が智慧として繋いでくださった根源を信じることも大切だと私は感じます。その両輪がバランスよく保たれたときのみ人と自然は調和していくようにも思います。

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

